

## 第6回四日市市文化財保存活用地域計画策定協議会 議事概要

日時：令和4年11月18日（金）午後2:00～3:30

会場：四日市市役所3階 301会議室

### [出席者]

鬼頭浩文委員（会長）、桐生定巳委員（副会長）、朝倉由希委員\*、大井隆弘委員\*、瀬河英雄委員、久志本まどか委員、岡本登喜子委員\*、諸戸靖委員、中森ゆき子委員、伊藤裕偉委員、小松威仁委員、大橋剛委員、廣瀬毅委員

（事務局）文化課 中野課長、葛山課長補佐、清水、石毛

（受託業者）株式会社T I T池田、田中\*

\*オンライン参加

### 1. 開会

事務局：みなさまこんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

これから第6回四日市市文化財保存活用地域計画策定協議会を開催いたします。本日の協議会は、市の情報開示条例に則って開催されます。記録も公開の対象となります。現時点では傍聴者はありません。事項書の4（2）より非公開になります。13名の委員にご参加いただき、うち3名はリモートで参加いただいています。四日市市文化財保存活用地域計画策定協議会設置要項第6条により、定足数を満たしており、会議が成立していることをご報告いたします。欠席は秋田委員です。

### 2. 部長挨拶

部長：みなさま改めましてこんにちは。この4月に部長を拝命しました小松です。前回は欠席し、ご挨拶できず申し訳ありませんでした。本日はご多用の中、協議会にご出席いただき大変ありがとうございます。この協議会が令和2年度に発足した当時は、私は観光交流課長の立場で関わらせていただきました。以来3年間、みなさまにはご熱心にご協議いただき、改めて感謝を申し上げます。本日、第6回協議会におきましては、各章を集約して、まだ不完全な状態ではありますが、計画の全体が見えるものをご提示させていただいています。計画素案の今年度中の完成を目指す中で、今日は非常に大事な会議と捉えております。本計画を策定することで、市民や様々な団体、行政等、地域総がかりで文化財の保存、活用の取組が進み、長く地域で守り伝えられてきた貴重な文化財が継承されていきますよう、委員のみなさまには、本協議会にて積極的なご意見を頂戴したく、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

### 3. 報告事項

事務局：前回、6月に第5回策定協議会を開催し、ご意見をいただき、その後8月に、文化財保護審議会でご意見いただいた。また、令和2年度、3年度に全28地区でとりまとめ

た地区の歴史文化の特徴の概要について、文化財に詳しい方と令和3年度からは連合自治会長にご意見をいただいた。全地区に10月に依頼したところ、100人の方にご確認いただき、そのうち70件弱の方々からご意見をいただき、それを修正したものが、本日の素案の25頁からの「4. 地区ごとの歴史文化の特徴の概要」としてまとめている。

会長：内容が盛りだくさんで、みなさん全部は読みきれていない状況だと思う。会議においては、今説明のあった部分と、事前に見ていただいた部分とで、気付いたことがあれば、発言いただきたい。事前にあまり読む時間がなかったと思うので、ここでの発言に追加があればメール等で事務局にお返しいただくことで良いと思う。今後のスケジュールで、12月には市議会に提出するというので、語句等の修正や書ききれていないところも残っているので、同時平行的に気が付いたところをお伝え頂ければ事務局が非常に助かると思う。よろしく願いしたい。

#### 4. 協議事項

事務局：6章までは今まで見ていただいた部分、第7章については初めてお伝えする部分。修正を加えた部分、新しい部分についてご説明する。以下、資料説明。

会長：これで計画の全体像が一覧できるところまで来たので、ここで細かくやりはじめたらきりがないので、今の概略説明をもとに、注意してじっくりと読んでいただきたい。何かあれば本日発言いただき、追加で気づくことがあれば、後日、今月中をめどに事務局にご意見等を寄せていただければと思う。全体構成は文化庁の指摘もあり変更もできない部分もあると思うが、構成の細かいところは後日で良いと思うが、大きくこうした方が良いという意見があれば伺いたい。オンライン参加の委員から伺っていく。資料は届いているか。

委員：計画は、手元に届いている。ここまでは特に問題ない。

委員：大変な作業だったと思う。一応全体読ませていただいた。細かいことはメールで送ることにする。今日の説明ですごいと思ったのは100人位にヒアリングして地区の特徴をまとめたというところ。4頁で、文化財の指定区分で整理している、上の「四日市市の歴史文化遺産」の図は良いと思った。下の「四日市市の歴史文化遺産リストの概要」表について、中身は指定区分とは関係ないので、それは大丈夫なのかと思った。例えば、町家、農家、商家とあるが、住居といって住宅とはいわない。文化財の指定区分に従って見直した方がより正確なものになると思った。最初の方でみなさん目にする部分なので、注意した方が良いかと思う。

会長：料亭、旅館というのはどうなのか？

委員：重要文化財、国宝の指定と登録で中身が違ってくる。第一次産業、第二次産業、第三次産業となることもある。文化的景観、伝統的建造物群があるが、片方がなしで片方は

いっぱい並んでいる。指定はないが、お宝ということで並んでいるのは良いと思うが、両者は分けがたい内容なので、まとめるとわかりやすいのではないか。

委員：56 頁の羽津地区の特徴について、出所がヒアリングということだと思うが、コンピナートが近代の特徴となっているが、羽津は霞ヶ浦等も含んでいるか。霞ヶ浦に住んでいた人に聞いたら、別荘、博覧会があったことが重要になるのではないか。記念碑等も入ってくる。この部分だけ気になった。100 名のヒアリングでそのエリアの人はいなかったのか？

事務局：別荘地については、ヒアリングの中で出てこなかった。委員からのご指摘で、富洲原にも別荘があったと覚えているが、特徴として出てこなかったのも、記載しなかったが、入れた方が良いということか？

委員：無理にとは言わないが、博覧会や競馬場等があったことは四日市にとって大事だと思う。また、別荘地であった名残りは区画がきれいに残っていて、大正期の建物もあると思うので、調査のチャンスを失わさないように入れておいた方が良く思った。

会長：100 人に聞いても漏れると思うので、気づいた部分は、委員のみなさんやパブコメでも集まってくると思うが。委員はどうか。

委員：委員が言われたように、霞ヶ浦は戦前に別荘地として開発されており、大きな特徴だと思う。北側に海水浴場があつて、病院があつて、風光明媚な場所だった。別荘の開発が進み、霞ヶ浦、隣にレジャー施設。名古屋の郊外ということで造られた別荘地帯。それが、戦後、伊勢湾台風、高度経済成長で開発されて変わってきている。という意味では、四日市の歴史的な経緯を残している場所として捉えられると思う。

会長：国道 23 号の松が残っている趣きのある場所か。どうなっているのかと通りがかるときに思う。まだ不足する部分があれば、情報を集めていこう。

委員：大変立派な文書となり、私からは特に意見はない。

会長：観光絡みで、民間も含めて、本計画を中心に四日市の歴史文化を保存・活用できれば良いと思うので、読み込んでいただいて、市外からやってきてもらうための見せ方の部分を考えてもらいたい。観光協会は写真も結構持っているか？

委員：新しいものはあるが、古いものはない。新しいもので、例えば、夜景の画像等が必要であれば、こちらで手配する。

会長：本日は欠席だが、昔、商工会議所は市内の写真コンテストを結構やっていて、応募していただいた市民から自由に市が写真を使えるよう集めているはずなので、呼びかけをすると良い。博物館には古い写真が一杯ある。できるだけイメージの伝わる良い写真を使ってほしい。ホームページから引用している場合には、カラーの冊子用にオリジナルの写真データを集めるようにしてもらいたい。

委員：全体的には良いと思う。全部読ませてもらったわけではないが、よくまとめてもらっていると思う。この前、少し意見を送らせてもらい、修正してもらっているのも、問題ないと思う。

委員：立派なものを作ってもらって、今年からなので、これまでの経緯等わからないこともあるが、良くできている。中身は違うが、同じような計画に関わっており、それらと比べても良くまとまっていると思う。

会長：行政だけでやれるものではないので、各地区の単位で保存・活用をがんばってもらうのもあるし、地区が動けば行政が支援するということにつながって行くと思う。しっかりと読んでいただいて、ご指摘いただきたい。

委員：第一回目に出させていただいて、どういう方向性で進めていったら良いか、と作業されていたところを思い返すと、素案だが、かなりの内容でまとめあげられたと思う。本計画が出来上がった後、どう活かしていくかが大事なところ。写真の差し替え等、市民の方々に見ていただけるものにしたというのがあるので、今後もパブコメでご意見を聞かせていただき、いろいろな過程で素案から完成に向けてブラッシュアップを図っていききたい。この場だけでなく、あらゆる場面でご意見を賜りたく、よろしくお願いしたい。

委員：観光交流課は、107 頁になるが、活動を育むというところで、我々の役割になっていると思う。方策の 3-② 全市的にイベントを行いというところがあるので、文化財等を活用して市民の方、市外から来る方に PR していきながら四日市の活性化を図っていききたい。この具現化に向けて、活動していかなければいけないと思っている。中身はこれで良いと思う。

会長：いろいろな形で書き込んでいる部分があるので、これは書き過ぎという部分もあるかもしれない。あえて、書いたら全部やらなければいけないということではないと思うので、可能性がありそうなものは残した方が良いが、行き過ぎて足かせにならないようしっかり見ていただきたい。

副会長：送っていただいたものを詳しく見て、いくつか意見があったので、事務局に話をさせていただいた。その時の意見は、修正されている。東海湖という言葉が出てくる。東海湖とはいったい何か、という説明を入れておいた方が良い。115 頁の東海湖由来の湿地植物とあるが、東海湖 500 万年から 80 万年の間は、渥美半島と志摩半島が接していた。今の伊勢湾が大きな湖になっていて、鈴鹿山脈のふもとまでの大きな湖だった。500 万年前は古東海湖、80 万年前になると東海湖、本によって、どこまでを言うのかははっきりわからないが、両方ある。東海湖というところに、500 万年前から 80 万年前は現在の渥美半島がくっついていて大きな湖になっていた、それを東海湖ということをごどこかに触れておいた方がわかりやすい。一番初めに触れておいても良い。例えば 12 頁の地形、地質の下の方に東海湖が出てくる。海進、海退を繰り返してというのがるので、このあたりで触れておいた方が東海湖について理解しやすいと思う。

会長：私もここで初めて東海湖を知った。117 頁に図が入っているので、ここに説明を加えても良いのではないかと。

委員：きっちり見ることがなかなかできず、いま他の人の話を聞いて気づいた。寺院の名前

が記載されていて、そこに行事のある場合もあるが、行事名が記載されていないのはどうなのかと思った。例えば、六呂見の観音さんには、念仏行事がある。それも文字としてあった方が良いのではないか。そういう視点で見えていなかったの、探すともう少し出てくるように思う。

会長：読めば読み込むほど出てくると思う。追加で出てくれば、内容を変えていく、追加していく形で保存していくものは保存していく、活用するものは活用していくとなる。現時点で気が付いたら、事務局に言っていただきたい。私の印象では、1/2~1/3位しかカバーできていないように思う。全部は難しいが、ソフトで残っているものは途切れやすいし、コロナで途切れているものもあると思うが、なるべく大切なものは残していくのは必要だと思う。

委員：保々は蛍を大切に住民は思っている。その自然環境についての記載が抜けているのではないか。桜もきれいだ。蛍に関しては新聞にも出ているし、何故保々の方が特徴として挙げなかったか？と思った

会長：蛍と桜は日本人の一番気になる部分と思うので、シティプロモーションでコンビナートの蛍と夜景は全国的に注目された。四日市の特徴として自然が豊か、かつ産業が豊かというのは伝わりやすい。

委員：たくさんの資料をわかりやすくまとめており、素人の私でも読みやすくよくわかった。四日市市が発展してきたのは水が良いからということを知ったことがある。工場ができたのは水が豊富で、良い水だからと聞いたことがある。水で賞もいただいていると聞いたが、ここにはそういう要素がない。そういうものが入っていると、いろいろな人が目にする資料になるので良いのではないかと思う。

事務局：四日市は古くから泗水の里と呼ばれていたと聞いている。大矢知そうめん、お酒も水がきれいだったからと聞いたので、そういった部分もあると市民の方のシビックプライドの醸成につながるのではと感じた。

委員：これまでずっと関わってきて、よくぞここまでまとめたというのが第一印象。細かい所は後からお伝えするとして、気になるところが2つある。105 頁の情報発信のところ、文化財を観光資源として位置付けとあるが、その通りとは思いますが、所有者によっては観光資源にして欲しくない文化財もある。素案として出されたときに、そういう方が見たときにどう思うかというのがある。所有者の意向に沿うように、意見を踏まえながら観光資源として活用するような感じにすれば。119 頁で、他市町との連携が書かれていて素晴らしいことと思う。他の市町で四日市が関連するので、相乗効果になると思う。例えば久留倍は桑名市、中世はいなべ市のお城を見られた人が四日市に来る等の効果も考えられる。すぐにはできないが、他にも広がるというのが書いてあると、集客にもつながるのではないか。

会長：希少植物を採ってしまうというニュースもあるので、そこには気を使い、かといって書かずに知らないうちに消えてしまうということもいけないので、バランスを取って、

地元の気持ちも尊重しながらだと思う。周辺は、道もつながっているし、文化的にも歴史的にも、たまたま四日市市という境界はあるが、周辺市町も同じ計画が順番にできてくると思うので、相互につなげていくというのも意識していったら良い。道は広がりがあるし、水といえば、菰野町等ともつながっていく。つながっていくイメージを作っておいていただきたい。

委員：四日市の文化資源をたくさん取り上げて、それぞれテーマで分類されているのは画期的で素晴らしいと思う。それぞれの文化財が単独で、所有者・管理者が自分たちだけでなんとかしないと、と思っているのを、これでもう少し仲間が見えてくるということにつながっていけばいいと思う。水の話があったが、水が良いということだけではなく、コンビナートが造られた一つの理由は、自前の水ではやっていけず、北伊勢工業用水、木曾川等の工業用水、その貯水池として伊坂や山村ダムがある。普通ダム山の中だが、あのようなひらべったい山で大きな川もないところにダムがあるということも、何故あるのかということも、市民はほとんど知らないと思う。歴史の流れを合わせて説明していくと、今のまちに対する意識が伝わっていくと思う。歴史と現在をうまく伝えられるようなストーリーをこの中から作りだしていきたい。

会長：四日市の歴史というと、四日市公害の後に建てられた博物館、環境未来館が主流となっているが、この先、10年、20年、30年と産業も歴史遺産になっていくだろうし、新しいものも含めて文化財として残していくようなイメージをお願いしたい

委員：私は内部地区だが、蛍はあえて出していない。レッドデータにのっている希少生物もいるが、あえて出していない。載せることで採りにくる。蛍も見るのでなく、採りに来られる。明らかに出すことによって貴重な資源が失われるとなると大変なことになる。これとどういう風に関連性をつくるか。東海湖の図は、出典を書いている方がよい。東海湖の地図は何種類もあるので、出典を明確にした方がよい。

会長：写真・出典を書いている方がよい。蛍はきれいな水がないと育たないが、そこに開発が入ってしまって、根こそぎなくなり、消えてしまう。

委員：もう開発が入っているが、開発でなくなる前に、人が入ってきてなくなる。

会長：植物・動物含めて、自然環境を四日市としてしっかり守っていくために、規制しきれないところもあるとは思いますが、民間の土地であっても守るものは守る、応援できる計画にしてもらいたい。微妙な部分は、気を使って確認したうえで、掲載する、しないの判断はしてもらいたい。

会長：計画の印刷について説明して欲しい。

事務局：300冊印刷する予定。かつ概要版を2000部作成予定。市のホームページにもアップして、いつでも見ていただけるようにしたい。

委員：水とか産業のことについて意見があったが、大項目にはそういう話が入っていて、最終的に選んだのが関連文化財群という経緯だったと思う。大項目を少し説明する文章はないのか。説明があると、わかりやすくなるのではないか。

事務局：61 頁以降が、大項目と小項目を説明する文章になっている。

事務局：地区ごとの解説がきて、59 頁「四日市市の歴史文化の特徴」に一度まとめの表が入っている。後から同じ表がでてくるが、ここでまとめたということをお示しして、その中身を 61 頁から説明している。後で、この表を使って、関連文化財群や文化財保存活用区域の説明となっている。59 頁の表が先に示してあるという構成になっている。

会長：計画の構成と流れについて、私たちは会議に出ていれば議論を行なってきたのでわかっていると思うが、市民の方や市外の方、その流れがわからない人が見るので、先入観なしで見たときに、大項目、小項目、関連文化財群、文化財保存活用区域につながっていく部分の流れが、もう少しわかる形にしておいた方がいいというご意見だ。流れがわからない人が見てもわかるような形にしておいた方がよい。ここだけの閉じた形で読み込んでいるだけでなく、知らない人のチェックもあった方がよいと思う。課内で関わっていない職員に読み込んでもらって、理解できるかをチェックしてはどうか。どうしてもこういった計画を作ると、わかっている人がわかって書くが、市民の人に保存活用に関わってもらうことが必要であり、そういう視点でチェックすることが必要と思うので、お願いしたい。

会長：皆さんから、たくさんのご意見をいただいた。「第 7 章 文化財の保存・活用の推進体制」に関しては、できたてで、これから皆さんからの意見を聞きながら、書き進み、修正すると思うので、作業を進めていってもらいたいと思う。来年度の中頃くらいには、これで動き始められるようにしていかなければならない。

## 5. その他

事務局：スケジュールについて。資料説明。

会長：第 7 回協議会を 3 月に実施し、来年度文化庁に認定を受ける。今までも文化庁に何回か相談を行っており、現時点でも指摘事項を反映している状況と聞いているので、4 月以降大きく変わることはないが、協議会は必要ないということで良いか。

事務局：今年度で計画素案を作りあげ、来年度は認定を受ける予定。令和 6 年度に計画についての評価委員会を立ち上げることを考えており、計画の進捗状況にご意見いただくものと考えている段階である。今後、詳細に検討していく。

会長：リモートで参加されている委員も、7 回目の策定協議会は、ほぼ完成している状態かと思うが、四日市へ来ていただけたらうれしい。新型コロナウイルス感染拡大の中、第 8 波も予想されているが、制限も外れた状態で進むと思うので、ぜひ四日市へ来ていただければと思う。

## 6. 閉会

事務局：ありがとうございました。これで第 6 回協議会を終了する。